
日本語版序文；自閉症スペクトラム障害翻訳にあたって

このたび、一般の小児科医師や自閉症のケアに関わる多職種の方々に向けて、この自閉症スペクトラム障害（ASD）に関する包括的な本を出版することができたことを、大変にうれしく思っております。本書は、米国小児科学会によって編集された最新の第2版オリジナルCD-ROMから翻訳したもので、日常で参照することができる基本的なデータや資料を網羅した内容となっています。本邦で、発達障害の診療に携わる小児科やリハビリテーション関係の皆さんにとって、日常の臨床現場で必携の書ではないかと思えます。

本書の特徴として特に強調したい点は以下となります。

1. すべての内容は、米国小児科学会の権威のある専門家だけでなく、ASDのお子さんを持つ親御さんなど様々な視点から、徹底的に査読をされています。また、本文中の議論や提言は、エビデンスに基づく視点から、かたよりのない公平なもので、専門家の合意に基づいています。

本書は、ASDの管理や援助のための信頼できる標準あるいは基準を提供しています。ASDについては、エビデンスもないややもすれば怪しげな情報も多く、医療関係者も親御さんも一様に、戸惑い振り回されることがしばしばありますが、そうした日本の我々にとって本書は特に重要だと思えます。この難しい作業を米国小児科学会が行い、成果を発表したことには謝意を表したいと思います。

2. 本書を読んで皆さんは、ASDの子どもへの行動療法的なアプローチが、随所に記載されていることに気づかれると思います。まだ多くの日本の医療関係者も、この方法論に通じているとは言えませんので、すでに行動療法的なアプローチが一般的となっている米国の現状に驚かれるかもしれません。

本書の中では応用行動分析に基づく行動戦略の具体的かつ明確な記載がされていますが、こうした対応法は医療関係者や家族にとってASDへのより良い対応への一助となると思います。そして、日本における本書の刊行は、我が国の外来診療やリハビリテーションへの行動療法的なアプローチの普及を加速することと思えます。

3. 本書の英語版には「臨床家のためのリソースツールキット」というサブタイトルが付けられていますが、臨床的あるいは医学的に重要な情報や資料などを集約しており、医療関係者や療育関係者にとっては貴重な内容になっています。さらに、幅広くしかも実際の指示やアドバイスなどを満載した、家族に手渡すための種々の冊子も用意されています。特に「自閉症スペクトラム障害について」は御家族向けの説明用の小冊子として企画されており、それだけでも一読していただければと思います。日本と米国では、文化、社会および医療システムの違いはありますが、本ツールキットは、日常診療における有用なツールとして取り入れることができると思えます。

本書には米国小児科学会による臨床的、技術的報告書および基本方針に関する文章なども収載されています。そして、ASD の同定、管理、移行ならびに ASD の他の重要な局面についても記載されており、それぞれが米国小児科学会委員会による議論のエッセンスを反映し、我々に深い洞察を与える内容となっています。

本書が ASD の日常診療やリハビリテーションに携わる方のみならず、ASD の皆さんとその御家族にとって、より良い生活の質の向上に資することを願ってやみません。

東京大学大学院医学系研究科 小児医学講座
岡 明